



CLEAN CENTER CSR REPORT 2023

株式会社 クリーンセンター CSR レポート 2023



株式会社 クリーンセンター

福岡県北九州市門司区新門司3-67-9 フリーダイヤル 0120-023-326
<https://clean-center.co.jp>



見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。



深呼吸したくなる空
開づくりを、まずは
我が家から実現！取締役
酒田 みちこ防災用品セットと靴
を枕元には常備する！取締役
岡崎 尚文

CLEAN CENTER CSR REPORT 2023

株式会社 クリーンセンター CSR レポート 2023

目次

P1	目次・編集方針・会社概要
P2	トップメッセージ
P3-5	事業内容
P6	沿革
P7-8	CSR方針
P9-10	KPI
P11-12	E・環境の取り組み
P13-14	S・社会の取り組み
P15-16	G・ガバナンスの取り組み
P17-18	マテリアルバランス

編集方針

報告対象組織	株式会社クリーンセンター
報告対象期間	2022年5月～2024年4月(※一部対象期間外を含む)
発行時期	2024年7月
参考ガイドライン	環境省「環境報告ガイドライン」(2018年版) SDGコンパス
お問合せ先	株式会社クリーンセンター 担当:柴田 〒800-0115 福岡県北九州市門司区新門司3-67-9 フリーダイヤル:0120-023-326 TEL:093-481-4523 FAX:093-481-4529 メール:marketing@clean-center.co.jp

会社概要

商号	株式会社クリーンセンター	
代表者	酒田 雅央	
設立	1978年	
資本金	1,000万円	
社員数	22名(2024年7月現在)	
所在地	福岡県北九州市門司区新門司3-67-9	
加盟・参加団体	北九州商工会議所 公益社団法人福岡県産業資源循環協会 一般社団法人廃棄物処理施設技術管理協会 一般社団法人北九州市防災協会 公益社団法人門司法人会 九州環境エネルギー産業推進機構(K-RIP)	北九州環境ビジネス推進会 NPO法人九州環境カウンセラー協会 ふくおか石膏ボードリサイクル研究会 北九州SDGsクラブ ふくおか3Rメンバーズ

TOP MESSAGE



人のチカラでサステナブルを切り開く

株式会社クリーンセンター 代表取締役 酒田 雅央

CSRレポート2023をご覧いただき誠にありがとうございます。このレポートは、当社のCSR(企業の社会的責任)の考え方や目標、実際の活動を一冊にまとめたものです。広くステークホルダーの皆様当社を知っていただきたく発行しています。

KPI見直しで感じた「人のチカラ」

当社のCSRは、ビジョン達成に向けて、社会やステークホルダーからの期待や要望を加味し、ESG(環境・社会・ガバナンス)の観点から重点項目を定めてKPI(重要業績評価指標)を設定し活動を実施しています。2023年度からは、見直したKPIで運用を行いました。

見直すにあたり、改めて当社の組織や事業運営における環境を整理しました。そこで感じたのは、『人のチカラ』が集結して価値が提供できているということです。

当社に搬入された廃棄物は、業務Gr.のスタッフが丁寧に手間暇かけて分別することで、資源活用の幅が広がり、リサイクル率向上につながっています。営業としてお客様の

ご要望に対応し、配車やマニフェスト受付、経理なども、管理Gr.のスタッフが一人何役も担うことで成り立っています。当社の真髄は、『人のチカラ』であると確信できました。

スタッフみんなで行動した成果を一人ひとりが実感して欲しい。そんな想いから、今回の見直しでは、より手触り感のある指標を定めることを大切にしました。CO₂排出量は事業ごとに指標を設定し、受入廃棄物のリサイクル率を新たに目標値として掲げ、みんなの動きが結果として分かりやすいものにしました。

パートナーシップで最大化を図る

現代は変化が激しく、技術革新のスピードも早くなっています。ビジネス環境にもAIやIoTの技術が広がり、動きが早い経済成長に直結する分野となっています。多様なテーマの情報をいち早くキャッチし、自社にどう取り入れていくかを検討するスピードも上げていくことが、社会対応力としても求められていると感じます。

限られた経営資源の中でそれを実現して

いくためには、自らの研鑽だけでなく、社外のステークホルダーとの繋がりを広く・深くしていく必要があると感じます。様々な分野の専門性を持った方々とのネットワークと連携が、持続可能な会社と社会の実現につながっていきます。今後は、より多くのスタッフがたくさんの人と繋がり、人のチカラの輪が広がっていくことにも力を入れていきます。

CSRは未来に向けての第一歩

そのためには、当社の方針や大切にしている考え方、現状など、当社が扉を開いて様々な角度から知っていただくことから始めると考えます。当社を理解いただき、想いに共感いただける方とのパートナーシップはより強固なものになると考えています。一人ひとりの日々の精進が、未来の人のチカラの最大化に繋がっていくのです。

このCSRレポートは、当社の“今”をまずお伝えする、大切な未来に向けての第一歩です。是非ご一読いただき、皆様とサステナビリティについてコミュニケーションさせていただけますと幸いです。

収集・運搬事業



廃棄物の様々な種類・荷姿・量に対応する、各種車両を保有

産廃・特管産廃・一廃の収集・運搬なら私たちにお任せください。固形のものはもちろん、液体や泥状のものなど多種多様な品目・荷姿・量の廃棄物に対応できるよう、豊富な車種をご用意しています。北部九州から中国地方まで広域エリアでの収集運搬に対応しております。

POINT
1

豊富な車種で
多品目に対応

POINT
2

北部九州から中国地方
まで広域エリアに対応

POINT
3

産廃・特管産廃・一廃も
運搬可能

許可内容

■ 許可内容

産 廃	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラ	紙くず
	木くず	繊維くず	動植物性残渣	動物不要物	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等
	鋳さい	がれき類	動物のふん尿	動物の死体	ばいじん	13号廃棄物	
特 管 産 廃	廃油	廃酸	廃アルカリ	感染性廃棄物	廃PCB等	PCB汚染物	PCB処理物
	廃石綿等	有害廃油	有害鋳さい	有害ばいじん	有害燃え殻	有害汚泥	有害廃酸
	有害廃アルカリ		廃水銀等及びその処理物				
一 廃	可燃物・不燃物・資源物等(A類)						

■ 保有車種・コンテナ

車 両	危険物ローリー車	大型特殊吸引車	特殊吸引車
	大型ダンプ車	小型ダンプ車	アームロール車
	ユニック車	大型キャブオーバー	キャブオーバー
	パッカー車	小型貨物車	合計19台
コンテナ	8 m ³ コンテナ	6 m ³ コンテナ	3 m ³ コンテナ



処分事業



幅広い業種から排出される廃棄物に、多彩な中間処理で多品目を処分する

合計6種類の中間処理方法で許可を取得しており、多品目の廃棄物処分が可能です。また廃石膏ボードなど、複数の素材で構成されている処理が難しい廃棄物にも真正面から向き合い、手間を惜しまない前処理と専用設備を設置することで、できる限り資源としてリサイクルすることをポリシーとしています。少量の廃棄物でも受け入れを行っておりますので、まずは一度ご相談ください。

POINT
1

多彩な中間処理で
多品目の処分可能

POINT
2

少量の廃棄物も
お任せください

POINT
3

アルカリ蓄電池や塗料などの
処理困難物も対応可

処分方法



破碎

搬入された廃棄物のうち、廃プラスチック類や紙くず、木くず、金属くず、がれき類などを破碎し、一定の大きさに揃えていきます。



破碎(廃石膏ボード)

石膏ボードを紙と石膏に破碎分離し、リサイクル可能な状態にしています。解体材も新築端材も、どちらも対応可能です。



圧縮

軟質系のプラスチックや破碎された可燃物をプレスし、圧縮します。圧縮した廃棄物はセメント工場等に出荷し、燃料としてリサイクルされます。



中和

廃酸・廃アルカリは、中和槽に注入した後、pHに応じて酸またはアルカリを添加して中和を行います。冷却水として再利用するほか、焼却・乾燥処理を行います。



焼却・乾燥

ロータリーキルン式の焼却炉で、汚泥・廃酸・廃アルカリを調質したものと廃油を処理します。燃え殻は、性状に応じて一部リサイクルします。



油水分離

廃油は固形物を除去した後に油水分離処理を行い、良質な油と残渣に分けます。油(液分)・残渣ともに再生燃料原料としてリサイクル可能です。

Happy
Action

買いだめせず消費期限内に使い切って食品ロスをゼロに!



業務Gr.統括リーダー
前田 信行

スーパーの資源回収ボックスを利用する!



管理Gr.リーダー
柴田 かおり



船舶廃油処理・その他事業



海が近い北九州ならではの廃棄物やその他環境に関する取り組みにも応え
あらゆる側面から未来を守る

国土交通省から許可を受け、国内外の船舶廃油処理を行っています。
また、工場内の薬品タンクや側溝清掃等の化学洗浄、自社の環境目標達成に向けた講習講師なども実施。
海に面して港があり、工業地域も多く、環境未来都市である北九州の地域の未来を考え、
「環境」をキーワードにあらゆる側面からサポート致します。

POINT
1

国内外の船舶廃油の
収集・運搬・処分が可能



船舶廃油処理

船舶において生じた廃油は、適正な計画と国土交通省令で定めた基準に適合した施設での処理が必要です。当社は国土交通省より許可を受け、国内外船舶の特殊吸引車による廃油の収集運搬と自社施設での処分を行っています。また、外国船舶の場合には必要な通関手続きも実施致します。

船舶廃油処理許可番号：九運海船 第72号

POINT
2

外国船舶に必要な
通関手続きにも対応



化学洗浄

工場内の薬品や油類などの各種タンク、敷地内の側溝や油水分離層の清掃など、施設メンテナンスに関する化学洗浄を行います。

施工例
・重油・灯油などのタンク清掃(消防検査対応)
・薬品タンク洗浄 ・油水分離槽の清掃
・暗渠・管渠の目詰まり

POINT
3

薬品タンクから側溝清掃まで
目的に応じた化学洗浄も実施

その他

環境アシスト

環境・廃棄物分野の目指すべきゴールに向けて、豊富な経験を持つ「環境アシスタント」がアシストします。

内容例
・廃棄物関連法規・基礎知識
・電子マニフェスト ・ゴミの減量化 など
実績業種
・鉄鋼製造業 ・プラントエンジニアリング業
・ハウスメーカー ・精密機械製造業 など



太陽光発電

当社工場の屋根にて太陽光発電を実施しています。発電した電力は、再生可能エネルギーとして全量売電しています。

発電仕様
・設置：2013年 ・出力：30.9 kWh
・推定発電電力：32,629 kWh/年



COMPANY HISTORY

- 1971年 ○----- 個人創業
- 1972年 ○----- タンク塔槽化学洗浄事業開始
- 1978年 ○----- 株式会社クリーンセンター 設立 資本金 4,000千円
ロータリーキルン式焼却炉設置
産業廃棄物処分業許可取得
- 1981年 ○----- 燃料系リサイクル事業開始
- 1983年 ○----- 廃プラスチック類処理設備設置
- 1988年 ○----- 廃酸・廃アルカリ処理設備設置
- 1989年 ○----- 環境関連資機材開発販売事業開始
- 1992年 ○----- 産業廃棄物収集運搬業許可取得
大型破碎設備設置
資本金 10,000千円に増資
特別管理産業廃棄物収集運搬業・処分業許可取得
- 1993年 ○----- 厚生労働省より「厚生省生活衛生局長感謝状」を受賞
- 1996年 ○----- 破碎設備(移動式)設置
(社)全国産業廃棄物連合会より「地方優良事業所表彰」を受賞
一般貨物自動車運送事業許可取得 事業開始
- 1998年 ○----- (社)全国産業廃棄物連合会より「功労者表彰」を受賞
「福岡県知事表彰」を受賞
- 1999年 ○----- 廃プラスチック類 リサイクル原料事業開始
- 2000年 ○----- 北九州市より「平成11年度産業廃棄物処分業優良業者」を受賞
- 2002年 ○----- 廃石膏ボードリサイクル設備設置
- 2003年 ○----- 船舶廃油処理事業許可取得
- 2004年 ○----- 環境省より「環境大臣地域環境保全功労者表彰」を受賞
- 2005年 ○----- 北九州市より「平成16年度産業廃棄物処分業優良業者」を受賞 継続表彰
圧縮設備設置
- 2006年 ○----- 油水分離設備設置
ISO14001:2004 (JISQ14001:2004) 認証取得
優良性評価制度基準適合(北九州市・特管収運)福岡県内第1号
チャイルドスポンサーシップに参加(現在も継続中)
- 2007年 ○----- 優良性評価制度基準適合(北九州市・中間処理/福岡市・特管収運/北九州市・収運)
北九州市処分業者第1号(以後、保有許可全てにおいて優良認定取得)
- 2009年 ○----- (社)全国産業廃棄物連合会より「優良事業所表彰」を受賞
ISO14001:2004 (JISQ14001:2004) 更新 認証取得
産学官連携「ふくおか石膏ボードリサイクル研究会」設立
木くず破碎設備追加設置
- 2010年 ○----- 北九州市より「平成21年度産業廃棄物処分業優良業者」を受賞 継続表彰
第1回こども茶会開催
- 2013年 ○----- 太陽光発電事業開始
- 2014年 ○----- (公社)全国産業廃棄物連合会より「功労者表彰」を受賞
- 2015年 ○----- 「北九州市認定産業廃棄物処理業者」認定取得
- 2016年 ○----- 圧縮設備更新
- 2018年 ○----- ISO14001:2015 (JISQ14001:2015) 更新 認証取得
環境配慮型重機導入
- 2019年 ○----- 大型吸引車増車 船舶廃油処理事業拡大
トラックスケール設置
コーポレートロゴ刷新
- 2020年 ○----- 石膏ボードリサイクル設備更新
「北九州市認定産業廃棄物処理業者」認定取得(新基準適用初認定)
- 2021年 ○----- 「北九州SDGs登録制度」第一次登録
- 2023年 ○----- 「福岡県SDGs登録制度」第一次登録

Happy
Actionゴミを出さないよう、
マイバッグを100%使用!管理 Gr.
室 秀則

買う・使う責任を意識し、無駄な物を買わない生活を!

管理 Gr.
林 智司

社是 社会への貢献 地域との調和

創業当初から掲げる社是「社会への貢献」と「地域との調和」は、今の時代で言うと、

地域課題を解決しサステナブルな社会を実現していくことです。

未来を見据えたVisionとCSRを戦略的に実行し、社会課題解決と新たな価値の創造を目指します。

VISION 廃棄物処理のコンビニへ

今や社会インフラの一部であるコンビニは、たくさんの生活必需品が販売され、私たちの生活を豊かにしています。私たちの廃棄物処理も同様に、あらゆるものが廃棄される社会の中で、当たり前目に目の前から回収され適正に処理されていくスキームが構築されており、社会インフラの重要な一部となっています。少量での回収や受入のノウハウと多品目の廃棄物処理ができる設備を駆使し、社員が一丸となって目の前の廃棄物の適正処理と資源循環に励みます。お客様や地域行政、同じ業界のメンバーとのパートナーシップで、地域資源循環システムの構築や廃棄物処理業界全体の発展を目指していきます。

私たちクリーンセンターは、少量・多品目の廃棄物の適正・リサイクル処理と、廃棄物処理の観点からレジリエントなまちづくりに貢献する「廃棄物のコンビニ」を目指します。そして、地域の持続可能性向上に向けて真の豊かさが溢れる社会の形成に貢献していきます。



CSR

持続可能な社会の実現には、持続可能な企業になることが重要です。

当社を取り巻く環境やステークホルダーの声を分析し、ESGの側面で重点項目を掲げCSRを推進していきます。また、SDGsのGOALとも関連づけ、社会課題解決を目指していきます。

	重点項目	関連するSDGs・GOAL
E 環境	・リサイクルの推進 ・有害物質の排出抑制 ・資源の適正使用	     
S 社会	・安全な職場環境の実現 ・地域社会との連携	  
G 社会	・内部コミュニケーション ・外部コミュニケーション ・人財開発	  

ステークホルダー

お客様

社員

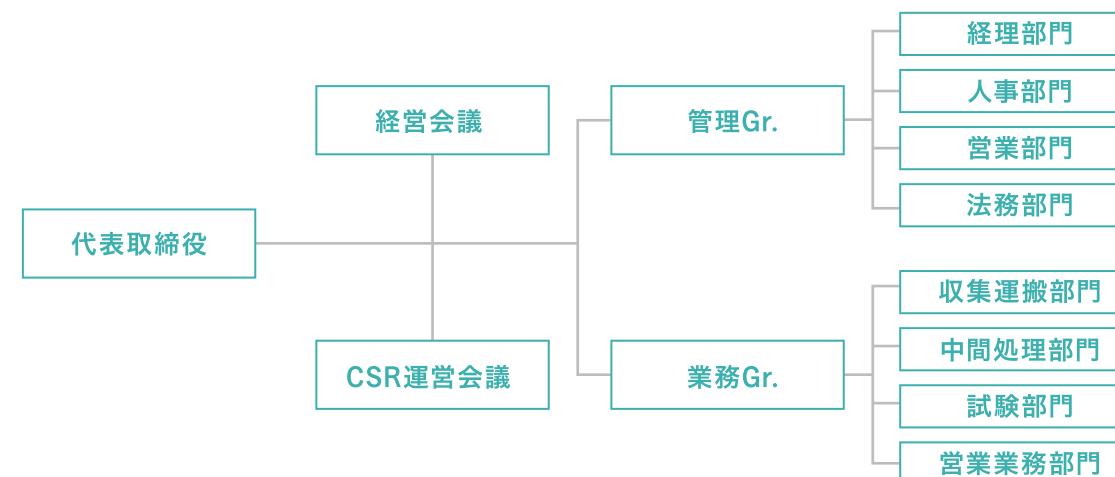
社員
ご家族

協力
会社

地域

行政

ガバナンス体系



Happy
Action

安全運転で高燃費
運転します！



業務Gr.リーダー
宮城 和司

災害に備えて食料や
水を保管しておく！



業務Gr.リーダー
芳村 大輔

[評価方法]◎:目標達成率120%以上 ○:目標達成 △:取組実施・目標未達 ×:取組未実施

重点項目	KPI	関連するSDGs・GOAL	取組内容	2022年度			2023年度			2024年度 目標	2025年度 目標	2026年度 目標
				目標	結果	評価	目標	結果	評価			
E 環境	年間CO ₂ 排出量	 	① 車両運転時のエコドライブ実施 ② 処理作業の効率化 ③ 電力使用量の削減	2019年比 3%削減	5.5%削減	◎	年間収集運搬量当たり 収集運搬事業CO ₂ 排出量 2022年比 1%削減 年間処分量当たり 処分事業CO ₂ 排出量 2022年比 1%削減	15.3%削減 12.9%削減	◎	年間収集運搬量当たり 収集運搬事業CO ₂ 排出量 2022年比 2%削減 年間処分量当たり 処分事業CO ₂ 排出量 2022年比 2%削減	年間収集運搬量当たり 収集運搬事業CO ₂ 排出量 2022年比 3%削減 年間処分量当たり 処分事業CO ₂ 排出量 2022年比 3%削減	年間収集運搬量当たり 収集運搬事業CO ₂ 排出量 2022年比 4%削減 年間処分量当たり 処分事業CO ₂ 排出量 2022年比 4%削減
	平成27年度基準 低燃費車導入率	 	① 車両更新時に検討・導入 ② 車両購入がない場合は現状維持	50%	55.6%	○	52%	52.6%	◎	55%	57%	60%
	平成17年度基準 低排ガス車導入率	  	① 車両更新時に検討・導入 ② 車両購入がない場合は現状維持	60%	83.3%	◎	62%	84.2%	○	65%	67%	70%
	グリーン購入法 適合製品比率		① 適合文房具類の使用 ② 適合制服・作業服の使用	78%	78.7%	○	80%	81.0%	◎	80%以上	80%以上	80%以上
	電子マニフェスト 新規取引先件数	   	① 取引先への勧奨 ② 取引先での講習会実施 ③ 電子マニフェストインストラクタ活動継続	5件	8件	◎	5件	10件	○	5件	6件	7件
	埋立最終処分量削減率	  	① 処理工程・処理作業の見直し ② 各種手順書の見直し	2019年比 3%削減	9%増加	△	リサイクル率 2021年比 1%向上	8.9%向上	◎	リサイクル率 2021年比 2%向上	リサイクル率 2021年比 3%向上	リサイクル率 2021年比 4%向上
	廃油のリサイクル率	 	① 選別精度の見直し ② 手順書の見直し	2019年比 3%向上	24.4%向上	◎	前年比 1%向上	16%向上	◎	前年比 1%向上	前年比 1%向上	前年比 1%向上
	年間 地域活動実施回数	 	① こどもお茶会の開催 ② 地域清掃活動の実施 ③ その他地域活動の実施	3回以上	15回	◎	10回以上	15回	◎	10回以上	10回以上	10回以上
	労働災害発生件数		① 労働安全衛生教育の実施 ② 安全・環境パトロールの実施 ③ ヒヤリハット報告書の活用 ④ ドライブレコーダーの活用	0件	0件	○	0件	0件	○	0件	0件	0件
	優良評価制度による 情報公開		① 確実な情報公開実施 ② 複数担当者によるチェック ③ チェックリストによる管理	情報更新 100%	情報更新 100%	○	情報更新 100%	情報更新 100%	○	情報更新 100%	情報更新 100%	情報更新 100%
G ガバナンス	検定合格者数	 	① 北九州市環境首都検定の受検 ② サステナ経営検定の受験 ③ 外部研修会への参加奨励など	環境首都検定: 12名 サステナ経営検定: 10名	環境首都検定: 14名 サステナ経営検定: 6名	△	環境首都検定: 17名 サステナ経営検定: 8名	環境首都検定: 17名 サステナ経営検定: 6名	△	環境首都検定: 18名 サステナ経営検定: 7名	環境首都検定: 19名 サステナ経営検定: 8名	環境首都検定: 20名 サステナ経営検定: 9名
	改善提案件数		① 運営方法の見直し ② 各部門における提案奨励 ③ 実行後の効果測定実施	年間25件	9件	△	—	—	—	—	—	—
	BCP策定		① BCP 策定 ② BCP の社内周知・勉強会	—	—	—	—	—	—	BCPの策定	BCP運用開始	BCP改善と定着

Happy
Action

渋滞が予想できる
所へ行く時はバスか
電車を利用する！



業務Gr.リーダー
山田 哲也

買った食材は残さず
に使い切る！



業務Gr.
赤金 靖彦

E 環境の取り組み

廃棄物処理を中心とした事業展開を行う
クリーンセンターにとって、環境は最重要課題です。
適正処理を前提に時代に合った資源循環と
環境影響の低減を両立し、持続可能な環境づくりに貢献します。

01 ISO14001による環境マネジメントの実施

2006年からISO14001に基づく環境マネジメントを実施しています。社会の変化と事業活動における環境影響を捉えて設定した環境方針に基づき、環境目標(KPI)の「E・環境」と同様)を立てて日々活動を行い、定期的なチェックと改善を行っています。長年取り組むことにより、経営と一体となった当社ならではの環境マネジメントを確立しています。

環境方針

基本理念

株式会社クリーンセンターは、産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬・処理、一般廃棄物収集運搬、船舶廃油処理、一般貨物運送事業の各業務を通じ、社は『社会への貢献』と『地域との調和』を实践するため、事業活動を展開しています。
環境未来都市北九州で廃棄物を取り扱う企業として、地球環境と当社事業活動との深い関わりを認識し、豊かな自然との共存と、地域社会との調和とを目指し、北九州市が環境基本計画に掲げる基本理念と三つの柱「共に生き、共に創る」、「環境で経済を拓く」、「都市の持続可能性を高める」の政策目標達成に寄与するとともに、環境マネジメント活動を推進することが経営の最重要課題の一つと位置づけ、以下の「活動指針」を定めます。

活動指針

- 1 当社が関わる法規制及び当社が受け入れを決めたその他要求事項を順守します。
- 2 当社の事業活動が環境に与える影響を認識して、環境マネジメントシステムを推進し、継続的な改善を実施します。
- 3 事業活動を通じて汚染の防止に努め、技術的・経済的に可能な限り3Rを推進し、最終処分量を削減、環境負荷の低減に努めます。
- 4 技術的・経済的に可能な範囲で事業活動の省エネルギー化を推進し、低炭素化社会の構築へ寄与します。
- 5 労働災害防止に積極的に取り組み、地域環境保全の担い手である社員を守ります。
- 6 北九州市SDGs登録制度の活動方針に則り道路サポーターとして周辺道路の美化に努めます。
- 7 社員一人一人の環境意識・社会意識の向上のため機会を設け、あらゆる場面で社員全員がSDGs達成を意識できるよう努めます。

2022年3月24日 株式会社クリーンセンター 代表取締役 酒田 雅央

02 CO₂排出量削減に向けて

電気リフトの導入

これまで使用していた軽油駆動のフォークリフトを更新し、電気式リフトを導入しました。CO₂排出量も騒音・排ガスも少ない環境整備ができました。



燃費管理の徹底

収集運搬車両ごとに燃費管理を行い、毎月社内掲示しています。数字を表すことで、エコドライブの啓発や車両更新の検討にもつながっています。



03 リサイクルに向けた分別の徹底

当社には、複数の素材でできている製品や一つの袋にいろんなものが混合された状態の廃棄物も受け入れています。より多くの資源を取り出すために、人の手による分別に力を入れています。

処理の流れを熟知した業務Gr.のスタッフが一つ一つ丁寧に分別を行い中間処理を進めています。また、定期排出のお客様には排出状況をフィードバックすることで、分別を強化していただくこともあります。

分別の一手間が資源循環の要になります。お客様とも連携し、引き続き分別の徹底を行います。



混合物の分別

廃プラスチック類や紙くず、金属くずなど、この先の処理工程に合わせて分別していきます。



塗料の分別

容器の中には、塗料の一部が固まっている状態のものもあり、丁寧にドラム缶に移しながら分別していきます。

04 電子マニフェストの普及促進

産業廃棄物の排出・処理状況をWeb上で管理する電子マニフェストの普及活動を継続して行っています。北部九州エリアを中心に各自治体や産業廃棄物資源循環協会が主催する電子マニフェスト講習の講師として、当社代表が合計13回登壇しました。

当社取引における電子マニフェスト利用も、2023年度は10件増加し、DX化の一つとしても積極的に推進して参ります。



Happy
Action

仕分けを確実に、
焼却ゴミの減少!



業務Gr.
蝶野 忠幸

外食の時は、食べき
れる量だけ注文!



業務Gr.
杉本 圭一

S 社会の取り組み

会社、地域、世界。

わたしたちは広く社会の一員として活動しています。

安全で安心して暮らすことができる社会を
ステークホルダーと共に構築していきます。

01 「北九州市道路サポーター」として地域清掃実施



会社周辺道路と地区の公園周辺道路を中心に、地域清掃活動を継続して行っており、2021年からは「北九州市道路サポーター制度」に登録し、道路サポーターとして活動を実施しています。

清掃活動はスタッフ全員で行っており、歩道のゴミ拾いや雑草の草むしりを行い、きれいな道路の維持管理に貢献しています。

毎日使用している道路と事業を行っている北九州への感謝の気持ちを込めて、これからも継続して実施していきます。



「北九州市道路サポーター制度」とは？

道路への愛着・環境美化への意識向上と裾野を拡大し、市民と行政の協働による美しいまちづくりにつなげていくことを目的として、2005年に創設された制度です。

北九州市が維持管理する道路で地域の方々が実施する道路清掃・美化などのボランティア活動について、

- 1 10名以上の団体
- 2 活動延長が100m以上
- 3 年3回以上の活動

という3つの活動内容を実施する団体は「道路サポーター」として登録が可能で、清掃用具の支給・貸与やゴミの回収、花苗の支給などの支援を受けることができます。

2024年3月時点で261団体が登録されています。

02 労働安全衛生活動

ヒヤリ・ハット活動

作業中に感じた「ヒヤッとしたこと」「ハッとしたこと」を記録し、重大事故を未然に防ぐ、ヒヤリ・ハット活動を継続して行っています。

業務Gr.のスタッフは事例をまとめた報告書を提出し、その中から重大事故に繋がりそうなものや複数の社員が同じような現象を感じたものに対して、「どうしたらヒヤリ・ハットを無くせるか」を班ごとのミーティングで検討し、改善行動を決定しています。ミーティングでは事例を用いて危険予知を行う、KYTも実施しています。様々な角度から安全な職場の形成を目指します。

ヒヤリ・ハット改善事例

ヒヤリ

廃油のバキューム作業が終わり長靴の裏をウエスで拭いて別の作業でハンゴに登る時に滑って転倒しそうになった。

改善

長靴の土踏まずの部分に油が残っていたことが原因だったため、洗剤を使い靴裏全体を洗うように手順を変更した。

緊急事態対応訓練の実施

廃棄物の収集運搬や処分作業中に発生が想定される緊急事態を特定し、対応手順を定めています。万が一が起きた際に冷静に、適正に対処できるよう、緊急事態対応訓練を毎年行っています。

今回は、火災とドラム缶・油水分離タンクからの漏洩を想定した訓練を実施しました。手順を確認しながら実際に対応デモンストレーションを行い、手順書の有効性とアップデートも検討しました。



03 世界の子どもを支援する「チャイルドスポンサーシップ」に参加

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンが実施している『チャイルドスポンサーシップ』は、集められた寄付金が、発展途上国の子どもたちを取り巻く環境改善（保健、健康、教育、水衛生など）に活用されるプログラムで、直接支援する子どもと繋がりが持てることが特徴です。当社では2006年より継続して参加しており、売上の一部を支援金として寄付しています。

2019年からはケニアで暮らす女の子を支援しています。毎年彼女の誕生日にはお祝いのメッセージをみんなで考えて送っています。

REPORT

定期的に届く動画レポートでは、地域に学校が建設され、きれいな水へのアクセスが可能になり、たくさんの笑顔を見ることができました。仕事を通じて、地域課題の解決はもちろん、世界の社会課題解決にも貢献できるよう尽力してまいります。



©World Vision

Happy Action

不要な外出は避け、余分な物を買わない！



業務Gr.
飯水 栄二

災害に備えて、非常食と水を備蓄！



業務Gr.
石田 達典

割箸を使うのをやめてMY箸を使う！



業務Gr.
松本 純一

G ガバナンスの取り組み

持続可能な社会をつくっていくためには、
持続可能な組織になることが欠かせません。
社会のニーズに応え働きがいと経済成長を創造していく、
笑顔あふれる組織を目指します。

01 福岡県SDGs登録制度 第一次登録

福岡県SDGs登録制度とは、福岡県内のSDGsに積極的に取り組む企業や団体を広く公表し、SDGsへの貢献を「見える化」することを目的としています。

2023年2月7日、登録証交付式が行われ、第一次登録事業者として登録されました。SDGs達成に貢献できる様、日々の事業活動・CSR活動をより意識して行って参ります。



SDGs達成に向けた取組方針

創業以来の社是である「社会への貢献」「地域との調和」を実現することは、地域課題を解決することを通じてサステナブルな社会を実現していくことである。事業活動を通じ社員一人ひとりがあらゆる場面でSDGsの達成に貢献していきます。

SDGs達成に向けた重点的な取組

公正・パートナーシップ・ 地域社会への貢献	社是である「社会への貢献」を達成するため道路サポーター制度による道路の維持管理を行い地域社会を支えていきます。
人権・平等・労働	生産性の向上を図ることで長時間労働を抑制し、加えて教育研修を実施することで労働災害が発生しない就労環境の実現を目指します。
産業・技術	電子マニフェストの積極的利用などのDXの推進により生産性を向上させます。
環境・ワンヘルス	主力事業である産業廃棄物処理に関し、リサイクル率を向上させ環境負荷の低減を図ります。

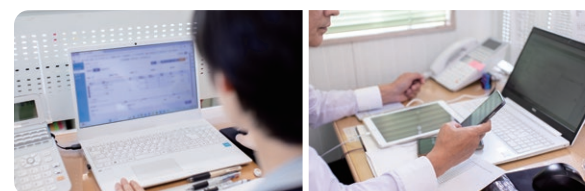


02 事務部門DX化の推進

業務効率を上げ生産性の高い職場環境をつくり働き方改革を推進していくことを目的に、2022年からDX(デジタルトランスフォーメーション)化に取り組んでいます。

2022～2023年度は、バックオフィス業務を中心にDX化を進めていきました。新しい経理ソフトを導入し、効率的な業務手順で作業時間の削減につながりました。また、配車スケジュールを社内SNSで閲覧できるようにすることで、お客様のご依頼にすぐに返答することができ、対応スピードの向上にもつながっています。

今後も業務プロセス全体を見渡ししながらDX化の検討を進め、提供価値の向上を目指します。



04 環境・CSR関連の検定を活用した教育

当社は、環境未来都市・SDGs未来都市である北九州市を中心に事業を行っています。環境分野の専門性や幅広い知識を持った上で業務を行っていくために、環境・CSR関連の検定受験を奨励しています。

まず最初にチャレンジするのが「北九州市環境首都検定」の一般編です。この検定は、北九州市が環境未来都市になった背景や環境保全の基礎知識が習得でき、2009年より社員全員合格を掲げています。次のステップとして「サステナブル経営/CSR検定(通称:サステナ経営検定)」で、CSRの基礎や持続可能性を高めるための様々なテーマを学ぶことで、当社CSRの理解を深めるためにも活用しています。

合格に向けて励むスタッフに声掛けをしたり、社外のステークホルダーとお話のきっかけになるなど、コミュニケーションの活性化にもつながっています。

03 業務改善提案制度の運用

各業務現場で起きていることに対して、現場を熟知している社員が主体的にスピードよく改善を実行できるよう、業務改善提案制度を運用しています。

コストがかかるものだけでなく、運用を工夫する改善策の提案もありました。今後も制度を継続していき、自分たちで課題発見から改善を行う力を育てていきます。

現状

A社に設置している廃棄物BOXが、排出量に対して大きいサイズを設置している…

改善!

A社の排出量に合った容量の専用BOXを調達。大きいサイズのBOXを他の現場に設置し、他のお客様にも満足いただいた!



Happy
Action

魚釣りの時、小さな
魚はキャッチアンド
リリース!



業務Gr.
天本 一郎

生ゴミコンポストで
堆肥に変え、家庭
菜園に活用!



業務Gr.
竹中 敏智

これから利用する
商品だけを購入する!



業務Gr.
西田 敬

エコバッグ、マイボトルを持参してゴミを削減！



ペットボトルはコンビニの専用回収機に入れて再利用に貢献！



車での買い物は1箇所ですべてを揃えることで燃費削減！



MATERIAL BALANCE

マテリアルバランス

※1:エネルギー等起源のCO₂排出量を対象とし、「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」にて公表されている情報で算定
※2:太陽光発電量は売電量を集計
※3:リサイクル率=サーマルリサイクル量+マテリアルリサイクル量/総排出量

INPUT

■ エネルギー等

項目	2022年度	2023年度
電気	37887.0 kWh	37383.0 kWh
軽油	56623.3 ℓ	56850.5 ℓ
ガソリン	3802.5 ℓ	3451.7 ℓ
灯油	4378.0 ℓ	4504.0 ℓ
水	606.0 m ³	631.0 m ³

■ 主な受入廃棄物

廃棄物の種類	2022年度	2023年度
廃プラスチック類	633.88 t	689.64 t
ガラスくず	1346.41 t	1764.93 t
木くず	176.61 t	178.76 t
紙くず	59.16 t	72.25 t
金属くず	239.89 t	238.92 t
繊維くず	11.46 t	30.10 t
ゴムくず	0.00 t	0.00 t
がれき類	308.39 t	152.54 t
汚泥	649.65 t	720.97 t
廃油	993.38 t	980.35 t
廃酸	14.26 t	21.61 t
廃アルカリ	35.78 t	43.12 t



収集・運搬事業

廃棄物運搬量

2022年度	
一廃	509.32 t
産廃	5071.06 t

2023年度	
一廃	515.96 t
産廃	5987.40 t



処分事業



船舶廃油処理・その他事業

OUTPUT

■ CO₂ 排出量 ※1

2022年度	2023年度
184.47 t-CO ₂	183.80 t-CO ₂

■ 太陽光発電量 ※2

2022年度	2023年度
31215 kWh	25954 kWh

■ 製品原料

項目	2022年度	2023年度
再生燃料原料	297.30 t	333.04 t
再生紙原料	88.63 t	71.05 t
再生プラ原料	20.95 t	11.82 t
製鋼原料	239.89 t	194.31 t

■ 排出廃棄物

廃棄物の種類	2022年度	2023年度
廃プラスチック類	533.23 t	499.34 t
木くず	728.36 t	1219.10 t
ガラスくず	213.61 t	226.10 t
がれき類	408.38 t	450.90 t
燃え殻・汚泥	553.59 t	486.91 t
廃油	652.42 t	830.30 t
石膏	567.30 t	312.60 t

■ 産業廃棄物リサイクル率 ※3

2022年度	2023年度
66.9 %	75.9 %